

第6回「家計と貯蓄に関する調査」(2024)より

心の豊かさ ↓ 物質面の豊かさ ↑

2025年3月

一般財団法人 ゆうちょ財団

調査趣旨・概要

調査趣旨等

・「家計と貯蓄に関する調査」では、家計の貯蓄の実態や生活に関する考え方を調査することにより、家計（世帯）の金融に関する調査・研究に役立てることを目的とし、隔年で実施。第1回を2013年に実施し、今回は第6回目となる。

調査概要

- ・ 対象者：全国の二人以上世帯、5,000サンプル。回答は、世帯主又は世帯で家計や貯蓄を管理掌握している方に依頼。
 - － 層化2段無作為抽出により、全国250地点にて20歳以上の世帯主を無作為に20サンプルずつ抽出。（計5,000サンプル）
 - － 標本抽出は、住民基本台帳を使用
- ・ 調査方法：郵便留置き法と郵送法の併用
- ・ 調査期間：2024年11月8日～同年11月24日
- ・ 回収状況（回収率）：1,212サンプル（24.2%）

調査結果（速報集計）のポイント

- ・2013年から隔年で実施してきた本調査で、物質面での生活の豊かさを重視する傾向が、初めて3割を超えた。
- ・今後も物価は上昇し、収入は増えず、貯蓄や投資を増やしたり、高齢期も就労すること等で生活している事情が見えてきた。

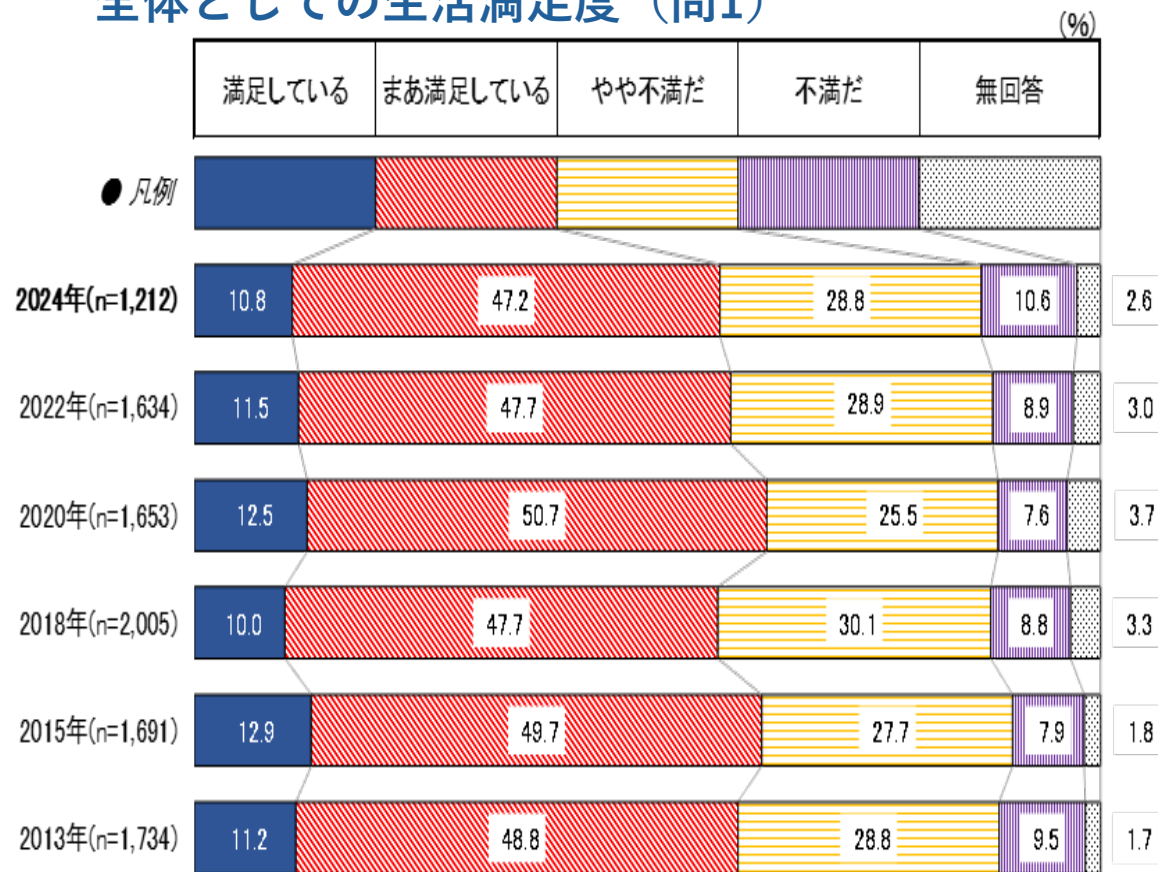
- ポイント① 現在の生活満足度（「不満」の割合が上昇、特に「資産・貯蓄」「所得・収入」「食生活」）
- ポイント② 心の豊かさと物の豊かさ（物質面での生活の豊かさを重視する傾向が一段と強まる）
- ポイント③ 物価動向に関する考え（1年後の物価は「上がる」が前回に続き8割越え）
- ポイント④ 世帯の貯蓄状況（貯蓄を増やす傾向が徐々に増加し、初めて2割越え）
- ポイント⑤ 投資信託の利用状況（30歳代の世帯保有率が急伸、20～40歳代はオンライン利用が多数）
- ポイント⑥ 貯蓄の目的〔世帯〕（「老後の生活への備え」、「病気や災害への備え」が半数越え）
- ポイント⑦ 金融知識・金融教育の状況〔貯蓄目標額の設定状況〕（「金融教育を受けたことがない」が約6割、20～40歳代の習得意欲が高い、「目標額を定め計画的に貯金する」のは約1割）
- ポイント⑧ 住宅の購入資金（資金の調達先は住宅金融支援機構からが約2割と減少傾向）
- ポイント⑨ 世帯主・配偶者の就労状況と就労収入（1年後の世帯収入見込みは半数が「変わらない」と回答）
- ポイント⑩ 就労継続希望年齢（「65～69歳まで」が3割越え、70歳以上も増加傾向）
- ポイント⑪ 高齢期〔65歳以上〕の家計の収入等（1か月あたり「20～25万円未満」が24%）

（参考）調査データの貸出について

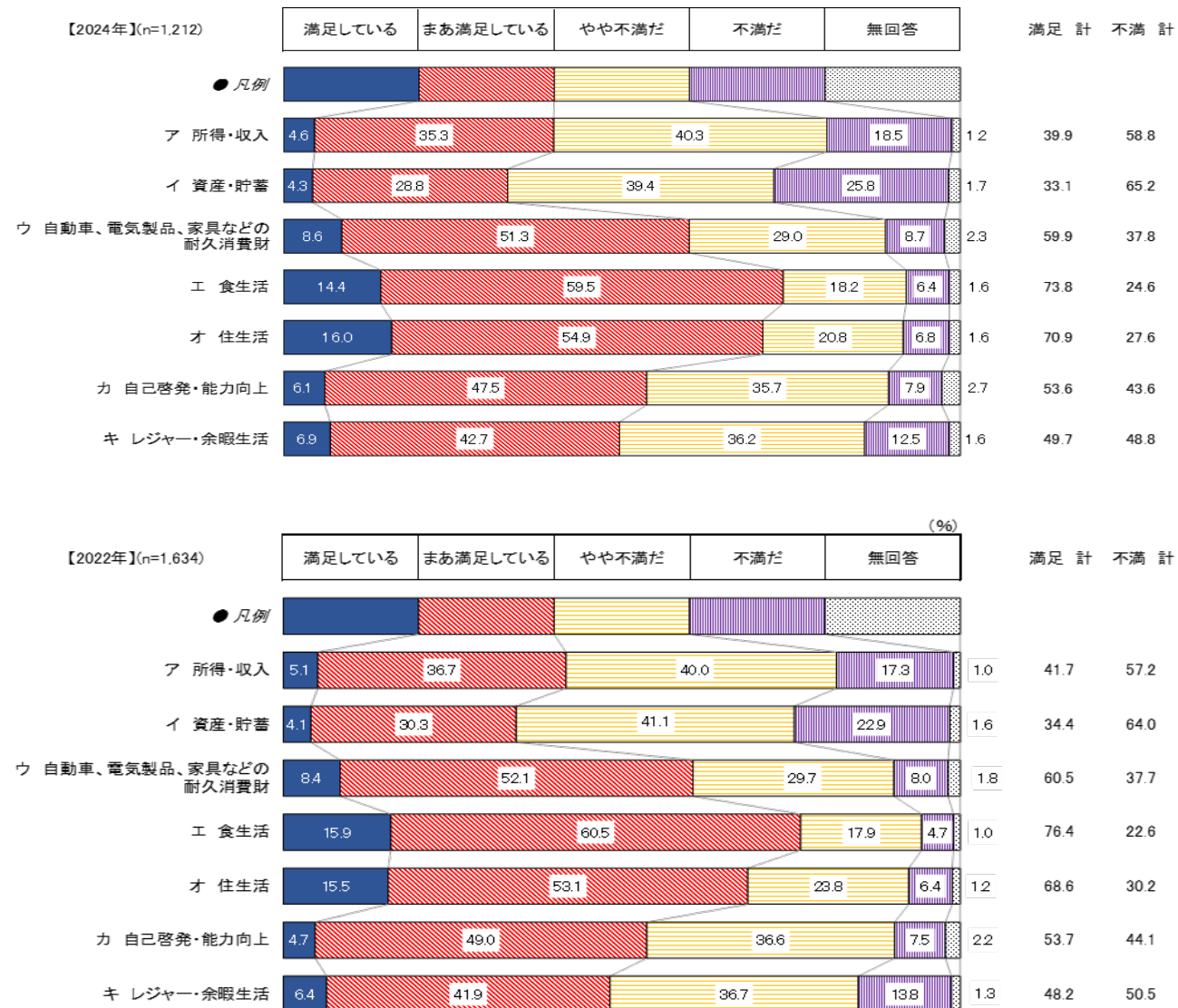
ポイント① 現在の生活満足度

- ・生活満足度において、「不満だ」の割合は初めて10ポイントを超す。
- ・「所得・収入」、「資産・貯蓄」、「耐久消費材」、「食生活」で不満の割合が上昇。

全体としての生活満足度（問1）



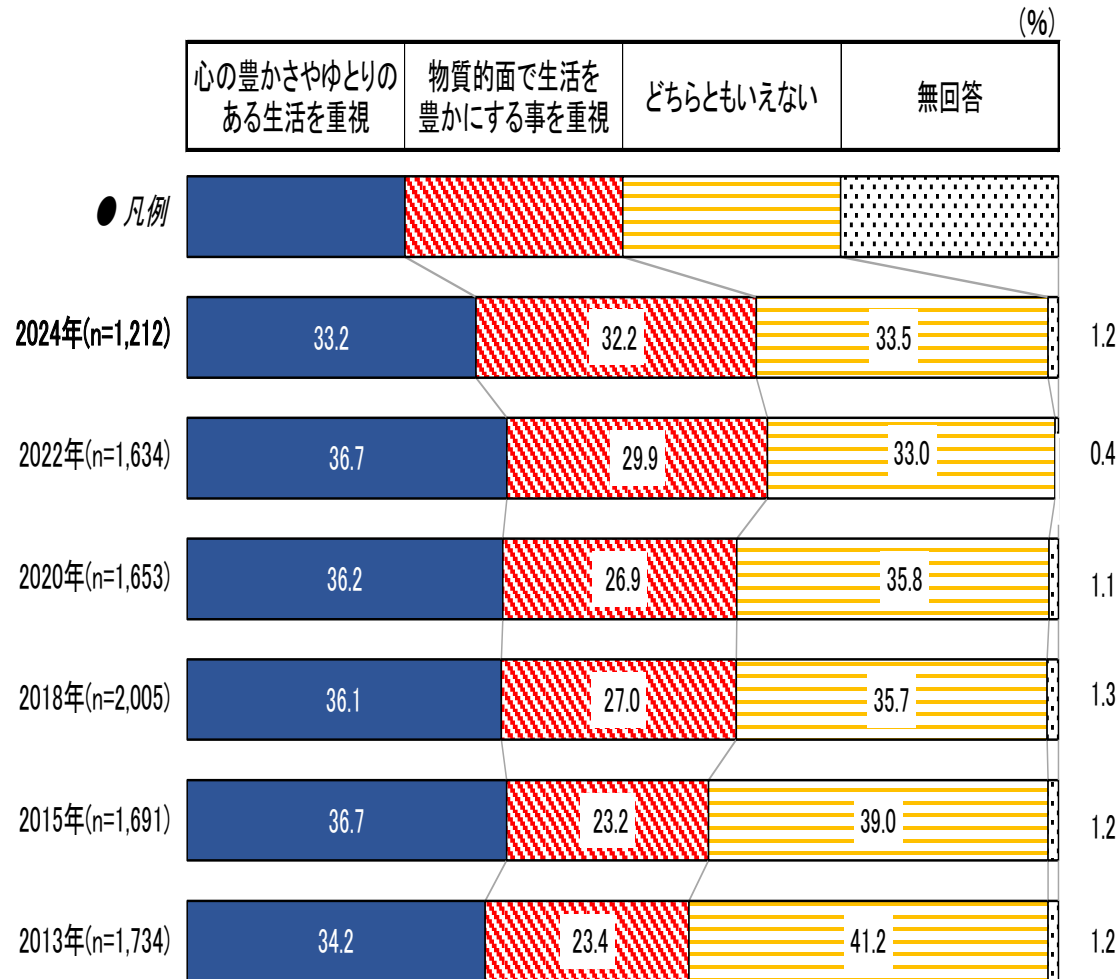
現在の生活満足度（問2）



ポイント② 心の豊かさと物の豊かさ

・今後の生活において、「物質的面で生活を豊かにすることを重視」する傾向が強まる。

今後の生活での「豊かさ」の考え方（問4）



【2024年】

		全体	心の豊かさやゆとりのある生活を重視	物質的面で生活を豊かにする事を重視	どちらともいえない	無回答
全体		1,212	33.2	32.2	33.5	1.2
性別	男性	1,072	33.8	32.1	33.0	1.1
	女性	112	30.4	34.8	34.8	0.0
年齢別	20歳代	37	27.0	45.9	27.0	0.0
	30歳代	106	28.3	51.9	19.8	0.0
	40歳代	194	30.9	45.9	22.2	1.0
	50歳代	216	30.1	29.6	39.8	0.5
	60歳代	235	44.3	28.5	26.4	0.9
	70歳以上	329	34.0	21.6	43.5	0.9
	無回答	25	24.0	28.0	40.0	8.0

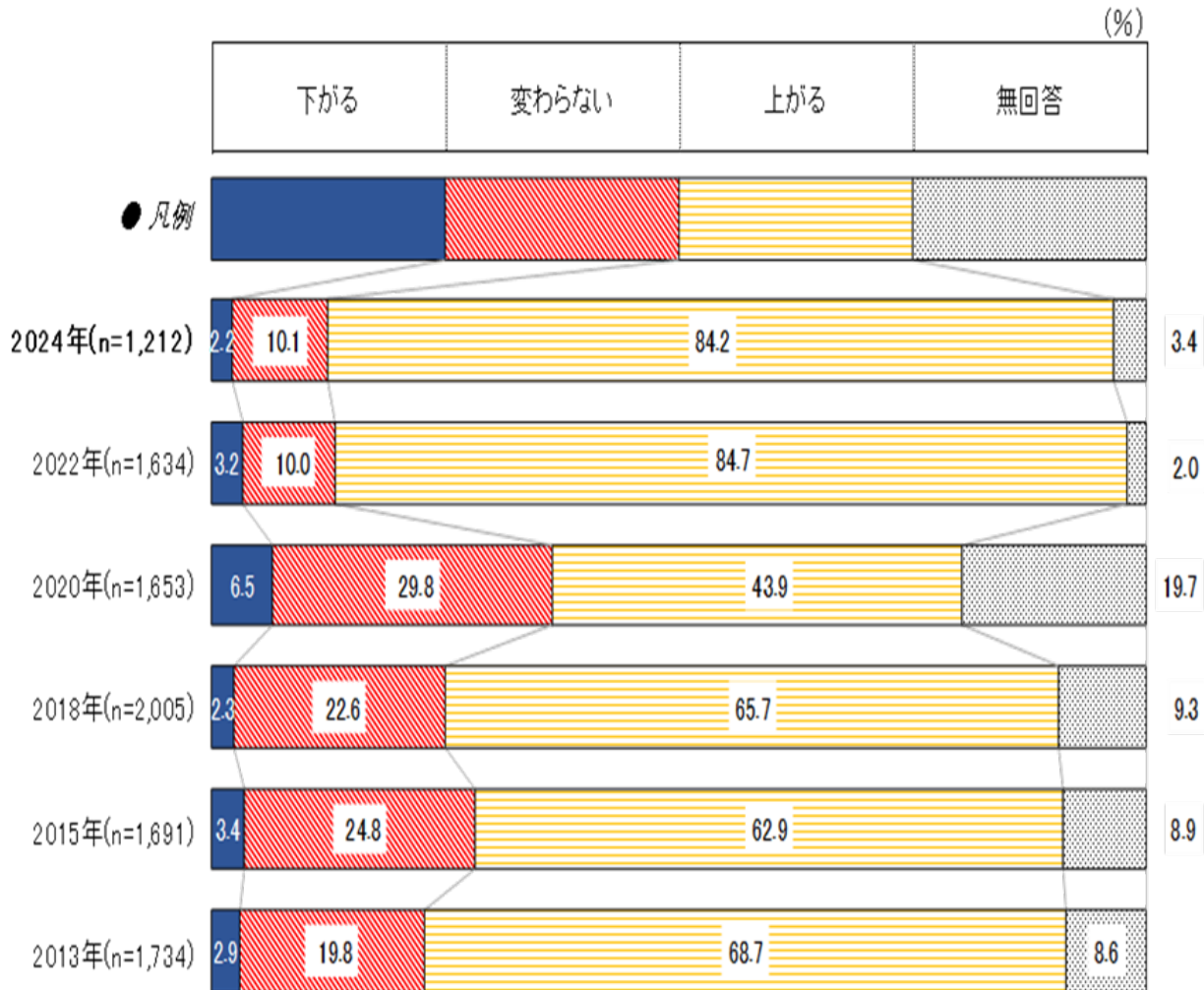
【2022年】

		全体	心の豊かさやゆとりのある生活を重視	物質的面で生活を豊かにする事を重視	どちらともいえない	無回答
全体		1,634	36.7	29.9	33.0	0.4
性別	男性	1,440	38.0	30.2	31.3	0.5
	女性	172	26.7	27.3	45.9	0.0
年齢別	20歳代	34	14.7	58.8	26.5	0.0
	30歳代	168	36.3	35.1	28.6	0.0
	40歳代	271	29.5	45.8	24.7	0.0
	50歳代	317	34.7	29.7	35.6	0.0
	60歳代	313	41.9	25.6	32.3	0.3
	70歳以上	485	41.0	20.6	37.1	1.2
無回答	21	28.6	23.8	47.6	0.0	

ポイント③ 物価動向に関する考え

- ・ 1年後の物価変動について、「上がる」が前回調査に続き8割越え。
- ・ 「上がる」とした人が考える物価の上昇幅は、「2%~5%未満」が46.3%、「5%~10%未満」が31.2%。

現在と比べた1年後の物価変動（問6）



1年後の物価の変動幅（問6）

【2024年】

		%				
		2%未満	2%~5%未満	5%~10%未満	10%以上	無回答
下がる幅	(n=27)	25.9	29.6	25.9	18.5	-
上がる幅	(n=1,021)	9.8	46.3	31.2	11.9	0.7

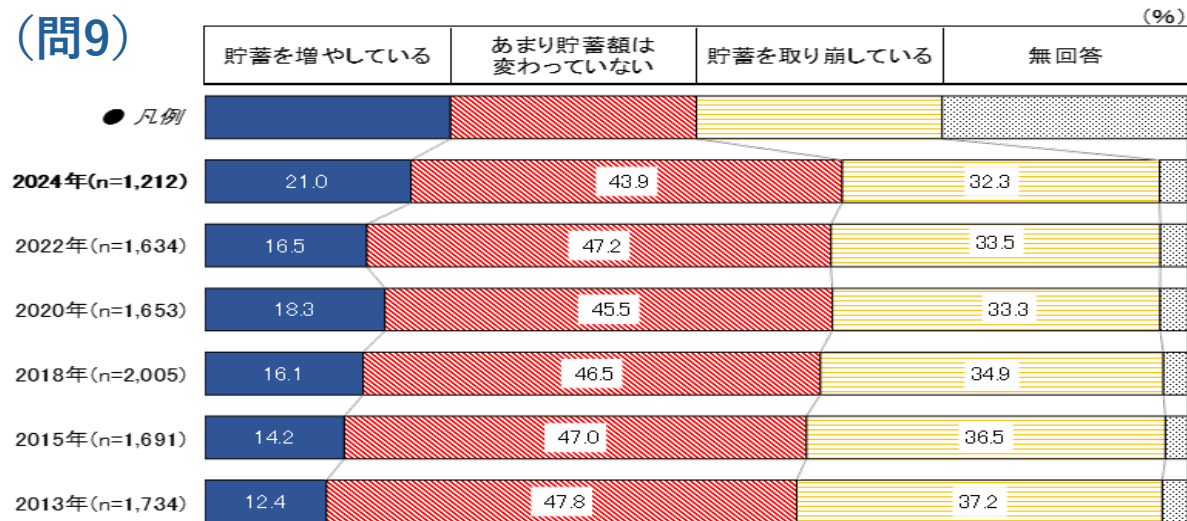
【2022年】

		%				
		2%未満	2%~5%未満	5%~10%未満	10%以上	無回答
下がる幅	(n=53)	43.4	35.8	11.3	9.4	-
上がる幅	(n=1,384)	9.8	40.3	33.7	15.5	0.7

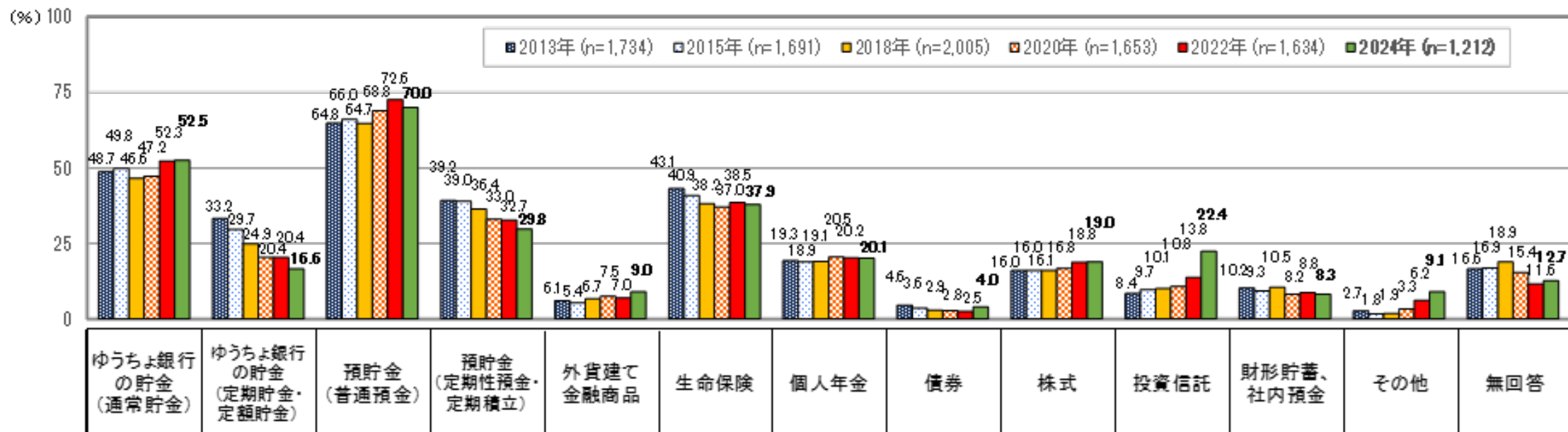
ポイント④ 世帯の貯蓄状況

- ・「貯蓄を増やしている」割合が、初めて20ポイント超過。取り崩しも3割台を継続。
- ・ゆうちょ銀行の「定額・定期」の保有割合が各回ごとに低下。「投資信託」が急増。

世帯の貯蓄状況（問9）



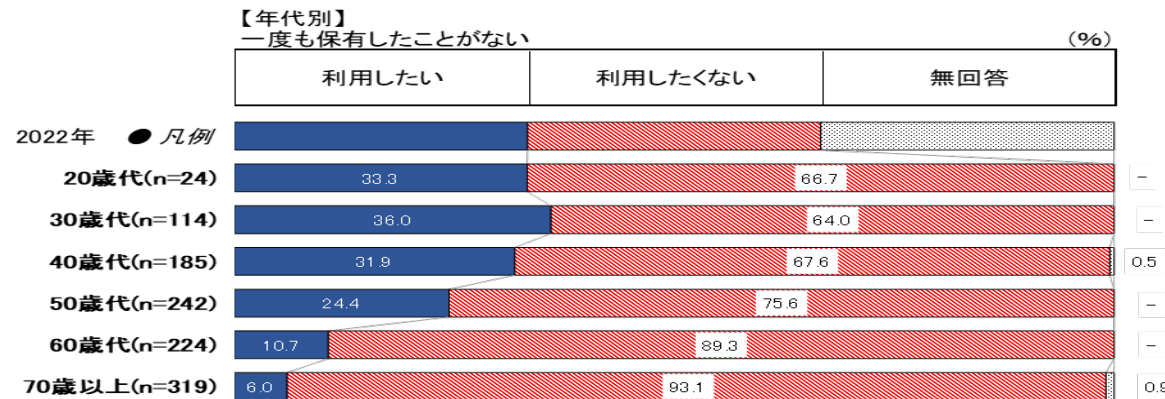
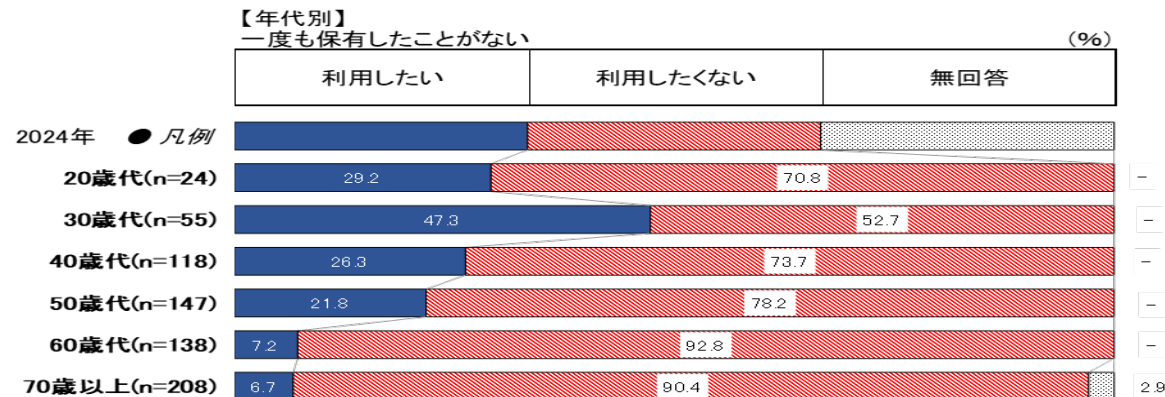
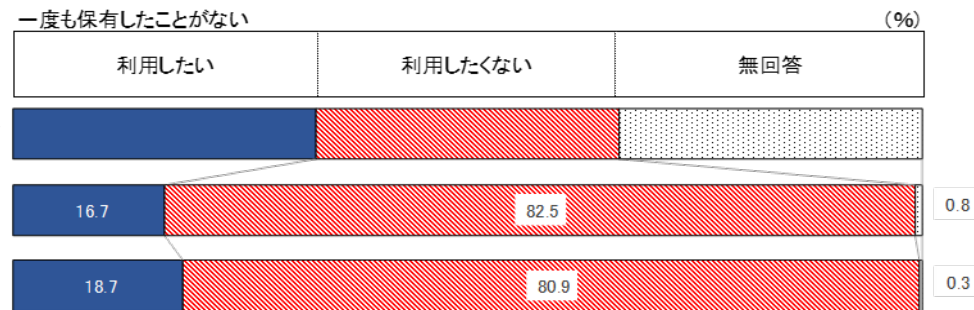
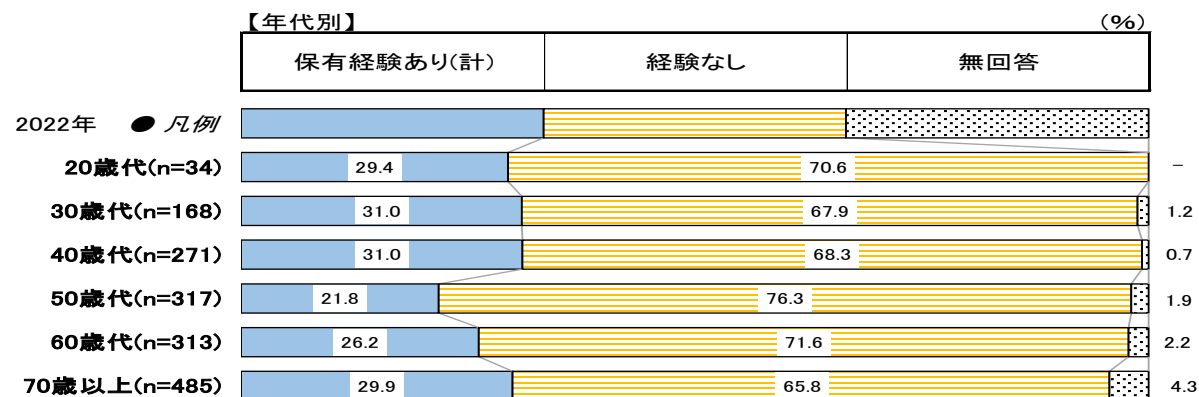
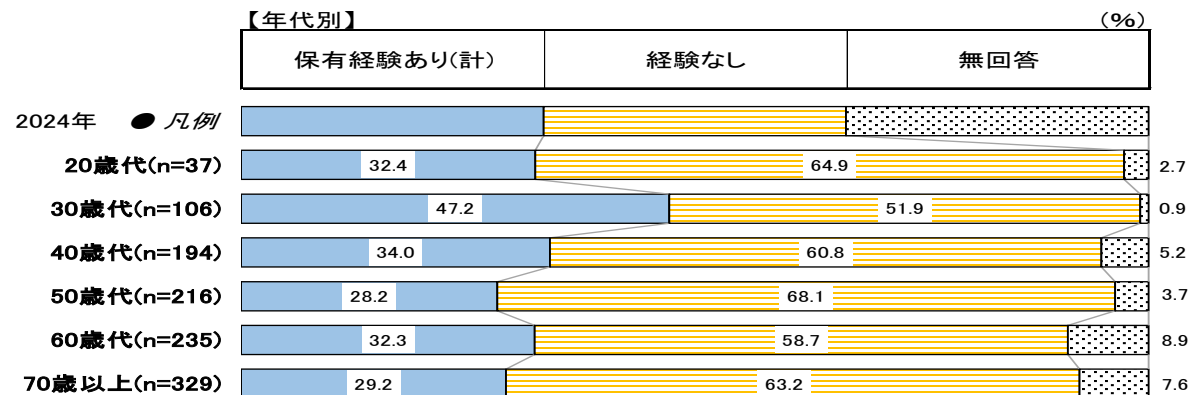
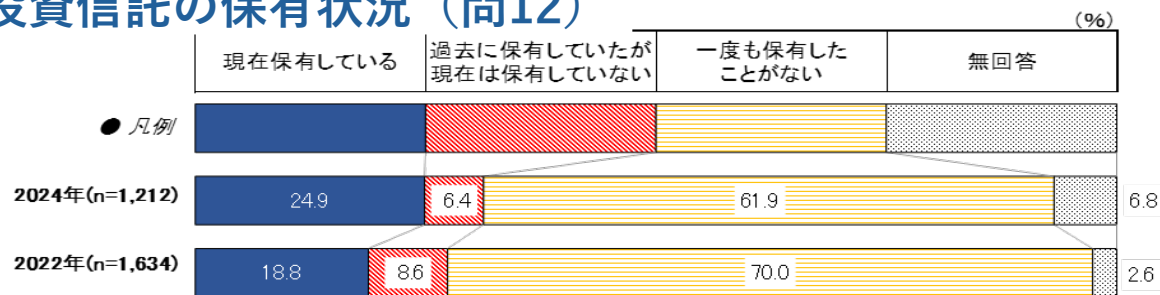
保有する預貯金・金融商品(問10(1))



ポイント⑤-1 投資信託の利用状況（利用意向）

- ・ 投資信託の世帯保有率が増加傾向。特に30歳代が急伸。
- ・ 今後の利用意向についても、30歳代の関心が特に高い。投資信託の今後の利用意向（問9）

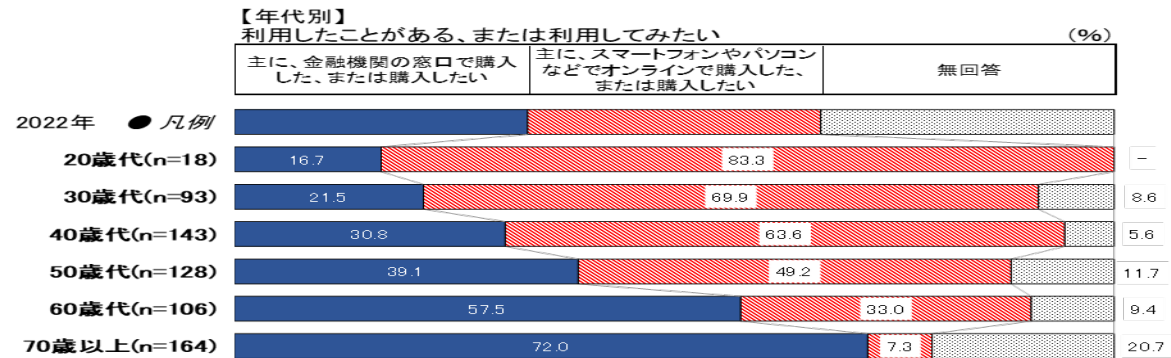
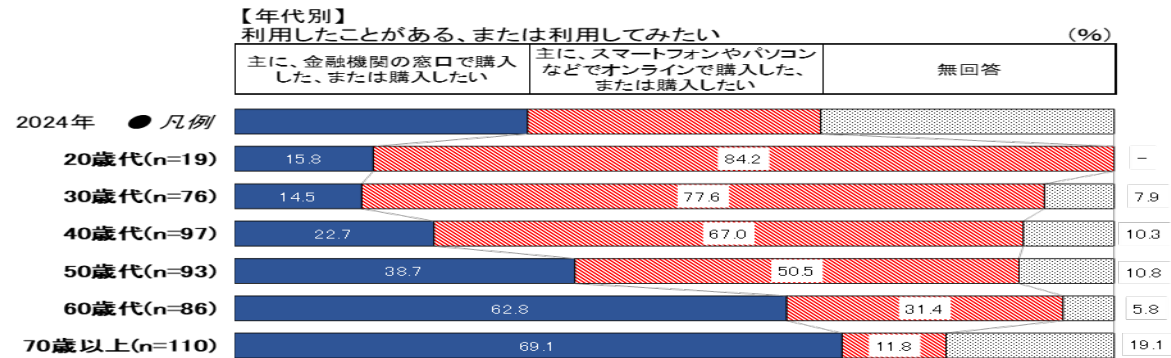
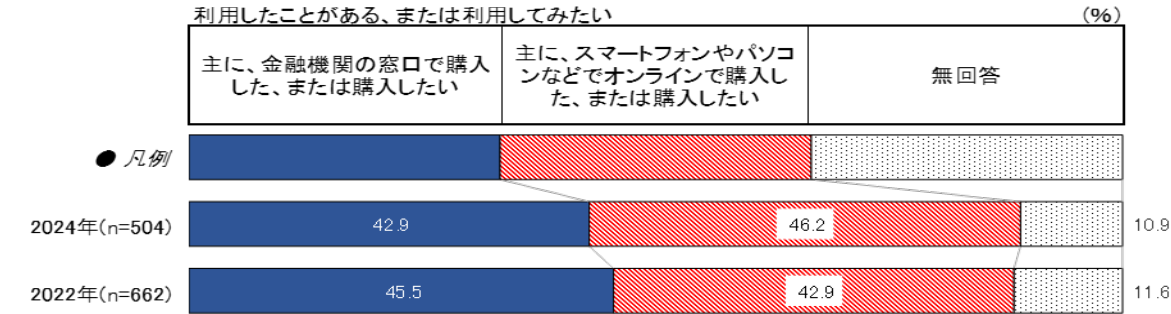
投資信託の保有状況（問12）



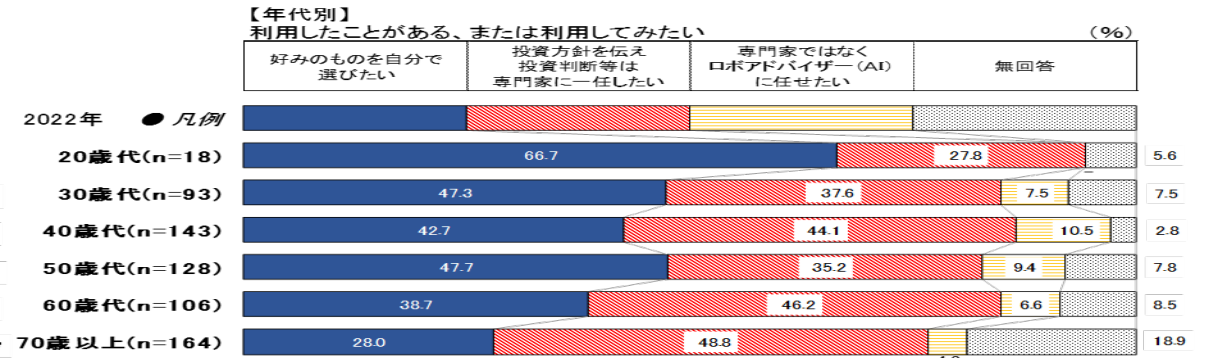
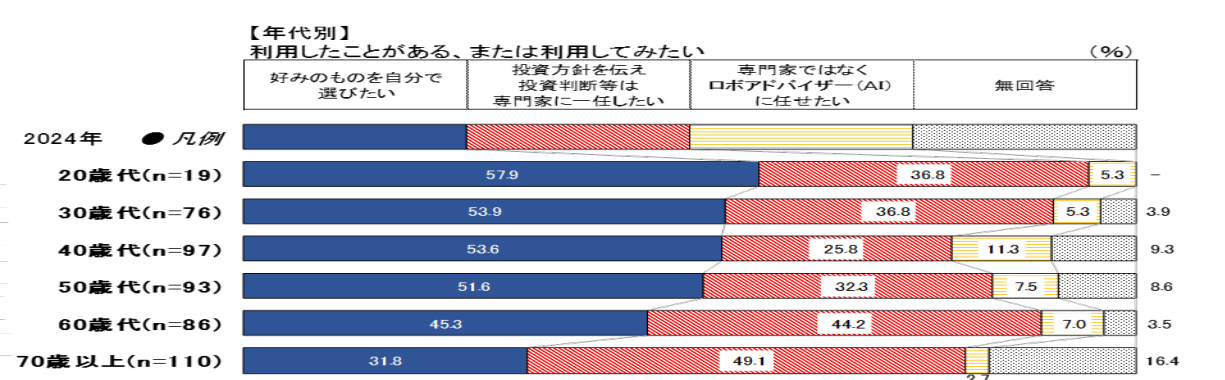
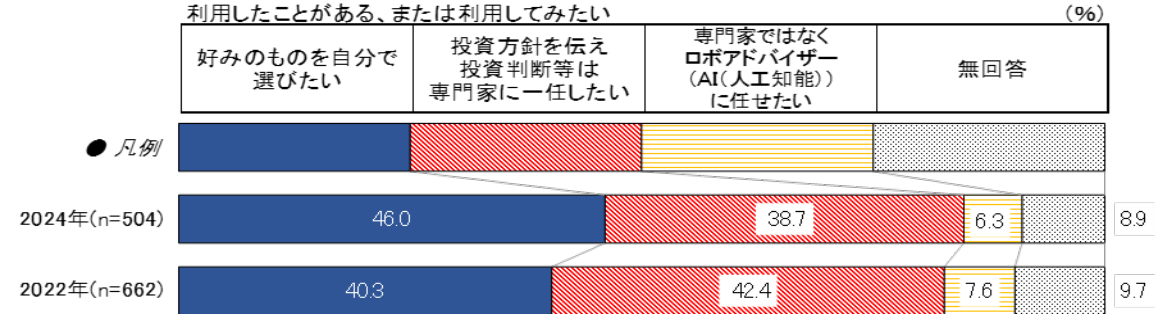
ポイント⑤-2 投資信託の利用状況（購入方法）

- ・ 投資信託の購入方法について、オンライン利用が増加。特に20代から40代まではオンライン利用が多数。
- ・ 商品選択において、「好みのものを自分で選ぶ」意向が増加傾向。

投信の購入方法（問12-3）



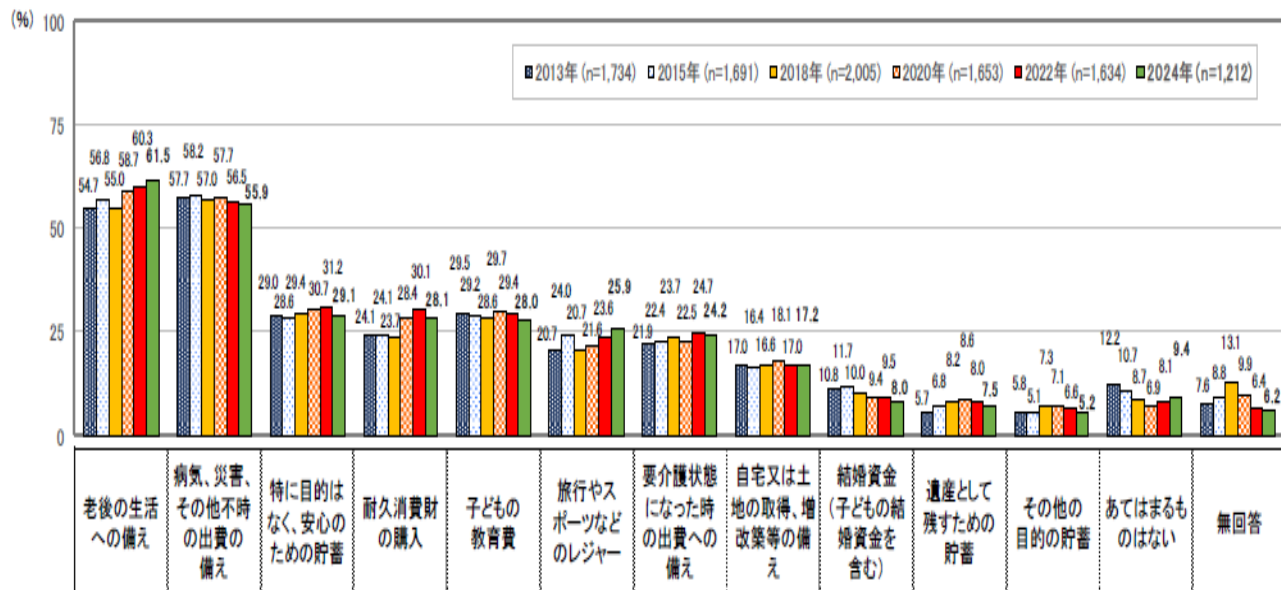
投信の選択方法（問12-4）



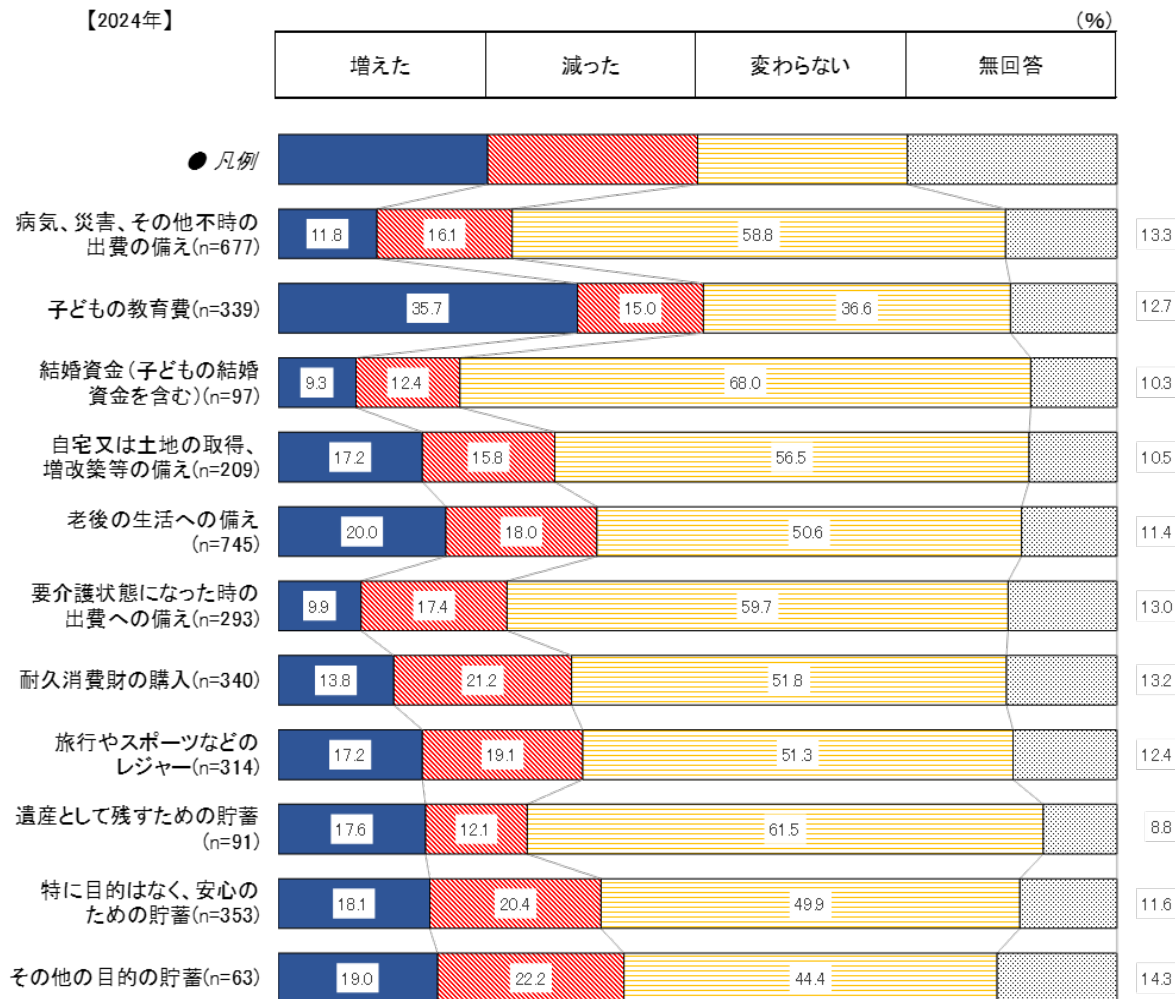
ポイント⑥ 貯蓄の目的 (世帯)

- ・世帯での貯蓄目的は、「老後の生活への備え」、「病気や災害への備えが」抜きんで多い。
- ・1年前の貯蓄額との目的別の増減について、「子どもの教育費」が突出。

貯蓄の目的 (問14(1))



各貯蓄の総額に対する占有率 問14(2))

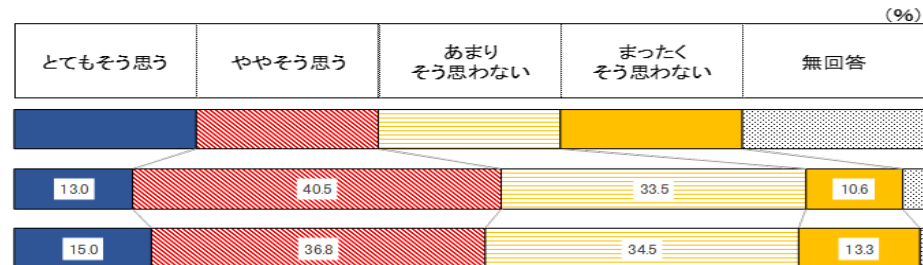
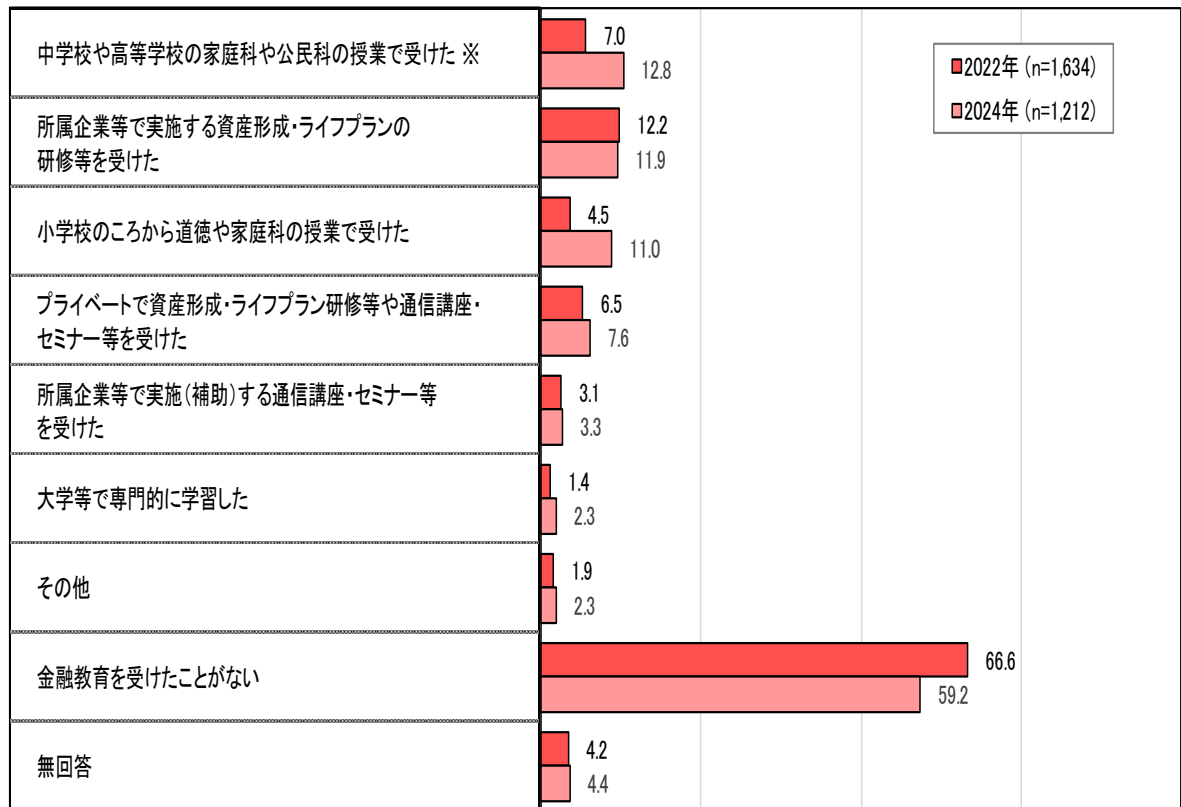


ポイント⑦-1 金融知識・金融教育の状況

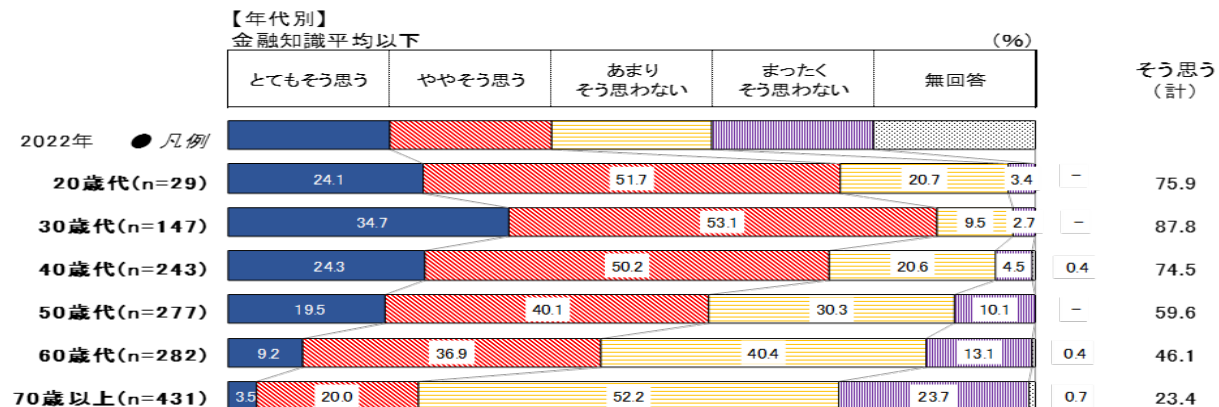
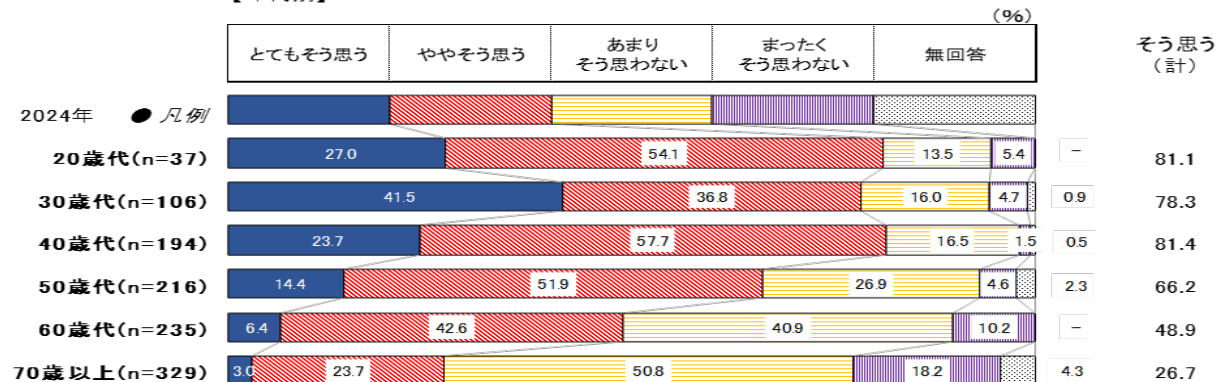
- ・「金融教育を受けたことがない」が59.2%。前回調査より7.4%の低下。
- ・「金融知識を身に付けたい」と思う層が半数を超え、年代別では20代～40代が8割程度と意欲がある。

金融知識の習得意欲（問17）

金融教育を受けた経験の有無（問15）



※2022年調査は自分の金融知識が「平均的である」、「平均よりも少し劣る」、「平均よりもかなり劣る」、「わからない」と答えた者のみに質問した。



ポイント⑦-2 金融知識・金融教育の状況（貯蓄目標額の設定状況）

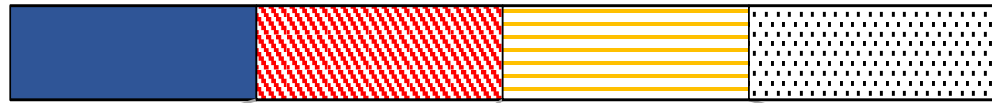
- ・教育費・結婚資金・自宅取得等・老後資金の貯蓄目的のある人の貯蓄状況で、計画的に貯蓄している人が約1割。
- ・金融教育の受講経験の有無で貯蓄状況を見ると、受講者の方が、計画的ないしは定期的に貯蓄している割合が高い。

貯蓄目標額の設定と貯蓄状況（問14-1）

教育費・結婚資金・自宅等取得増改築・老後の備えの貯蓄目的がある (%)

目標金額を定め、計画的に貯蓄	目標金額は明確ではないが、定期的に貯蓄	目標金額は明確でなく、余裕が出たときにその都度貯蓄	無回答
----------------	---------------------	---------------------------	-----

● 凡例



金融教育受講経験ごとの違い（問14-1）

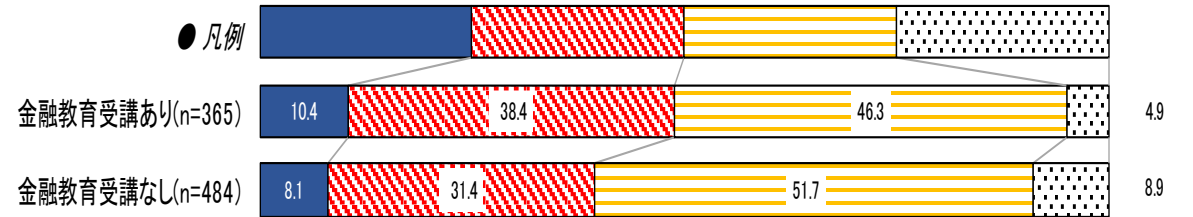
【2024年】

【金融教育を受講した経験有無別】

教育費・結婚資金・自宅等取得増改築・老後の備えの貯蓄目的がある (%)

目標金額を定め、計画的に貯蓄	目標金額は明確ではないが、定期的に貯蓄	目標金額は明確でなく、余裕が出たときにその都度貯蓄	無回答
----------------	---------------------	---------------------------	-----

● 凡例



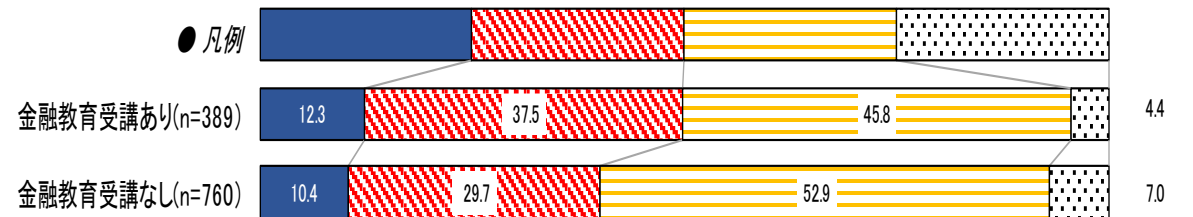
【2022年】

【金融教育を受講した経験有無別】

教育費・結婚資金・自宅等取得増改築・老後の備えの貯蓄目的がある (%)

目標金額を定め、計画的に貯蓄	目標金額は明確ではないが、定期的に貯蓄	目標金額は明確でなく、余裕が出たときにその都度貯蓄	無回答
----------------	---------------------	---------------------------	-----

● 凡例



ポイント⑧ 住宅の購入資金

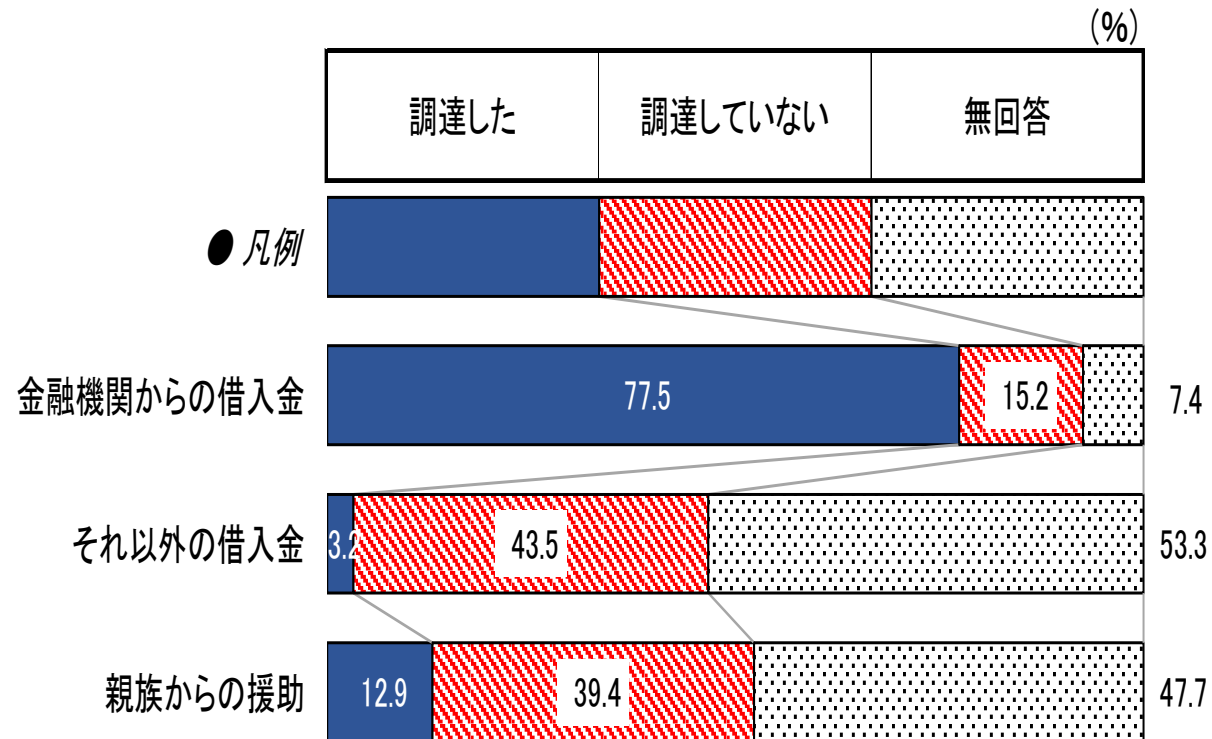
・住居の購入資金は金融機関からの借入金が77.5%。借入金額は2,000千万～3,000万未満が34.5%と最も多い。

・主な調達金融機関は、民間時金融機関が82.6%で、住宅金融支援機構からは、20.6%と減少傾向。

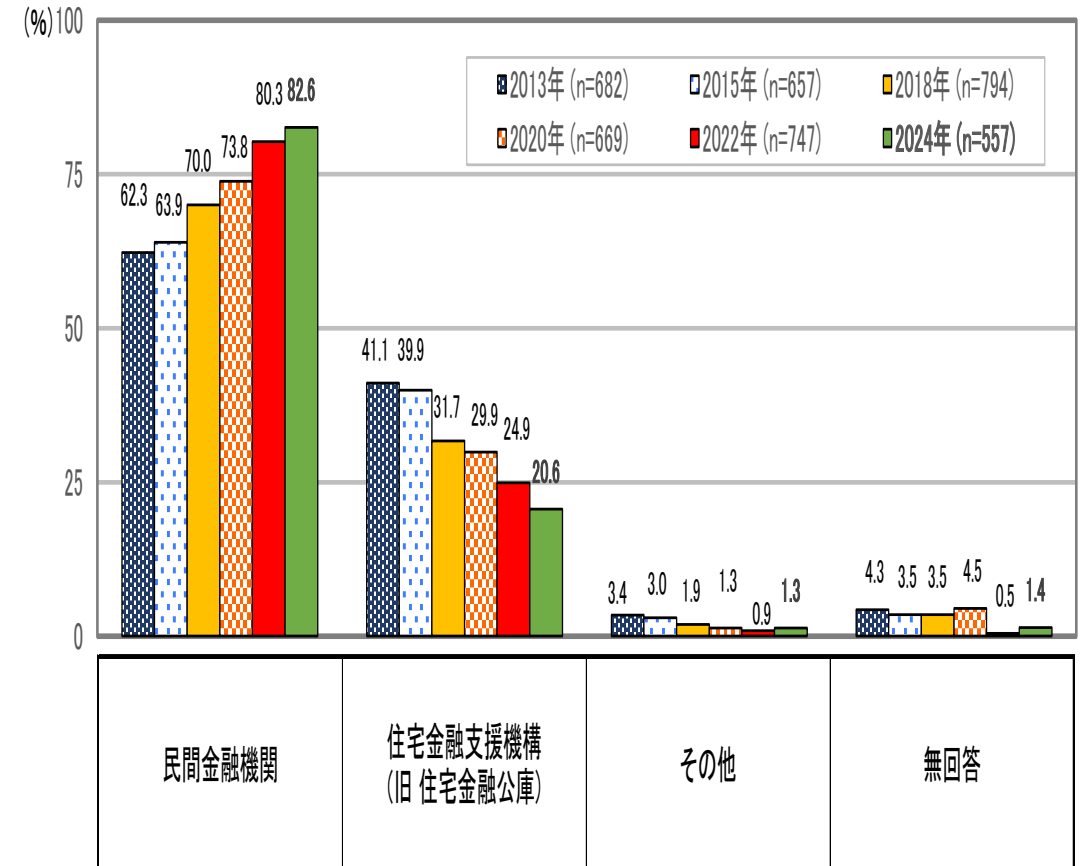
住宅購入資金の調達の有無 (問18-4)

【2024年】

世帯主または配偶者が購入した持ち家に居住(n=719)



主に調達した金融機関 (問18-5)

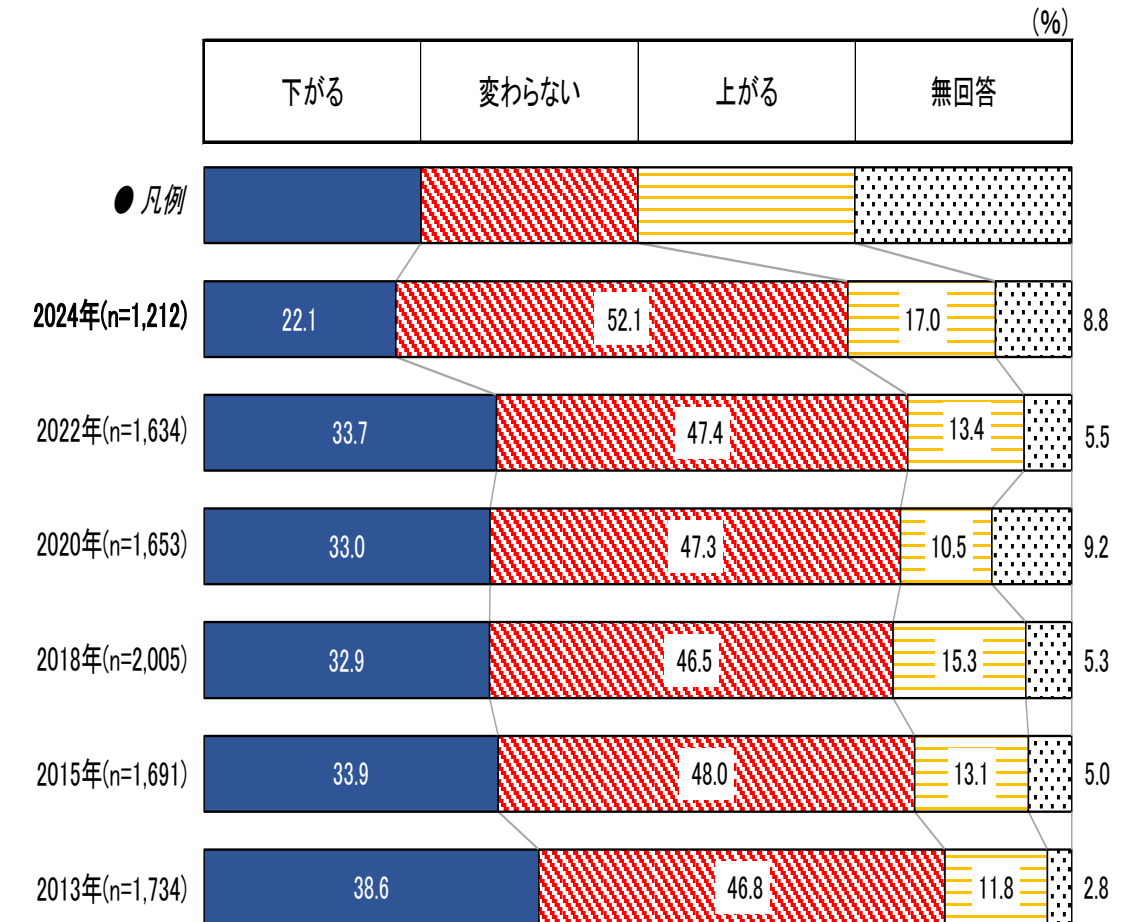
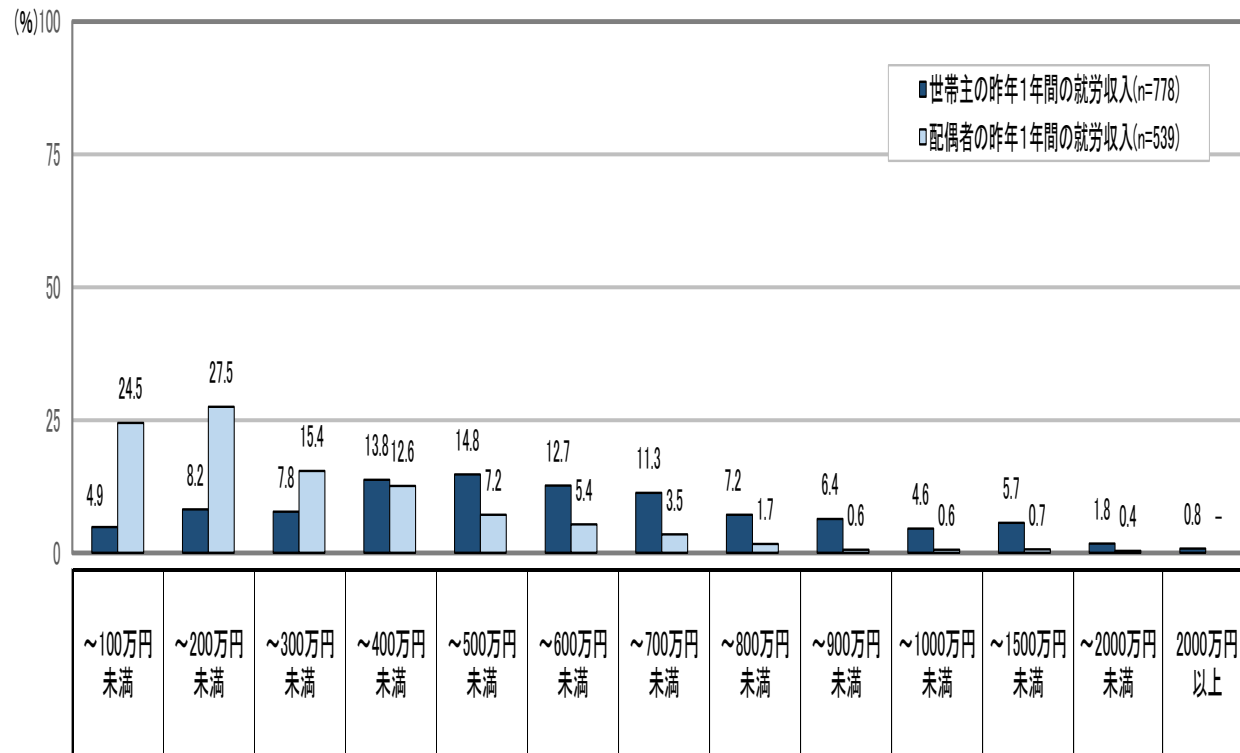


ポイント⑨ 世帯主・配偶者の就労状況と就労収入

- ・世帯主・配偶者の前年の就労収入は、世帯主は、「400～500万円未満」が14.8%、次が「300～400万円未満」が13.8%。 配偶者は、「100～200万円未満」が27.5%で最多、次が「～100万円未満」が24.5%。
- ・今年1年間の世帯年収見込みと1年後の変動について、「上がる」が17.0%、「変わらない」が52.1%で、双方とも増加傾向。

世帯年収、今年1年間の見込みと1年後の変動（問27）

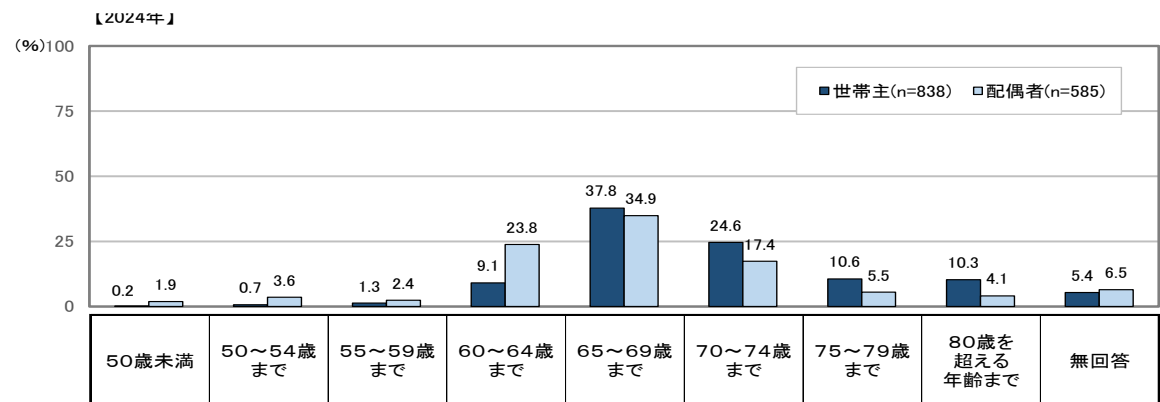
【2024年】 世帯主・配偶者の前年1年間の就労収入（問25）



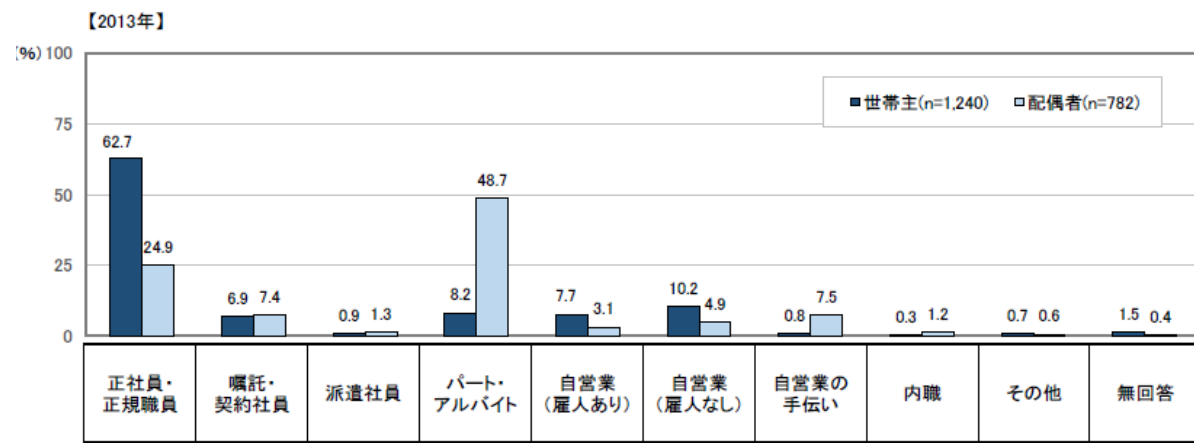
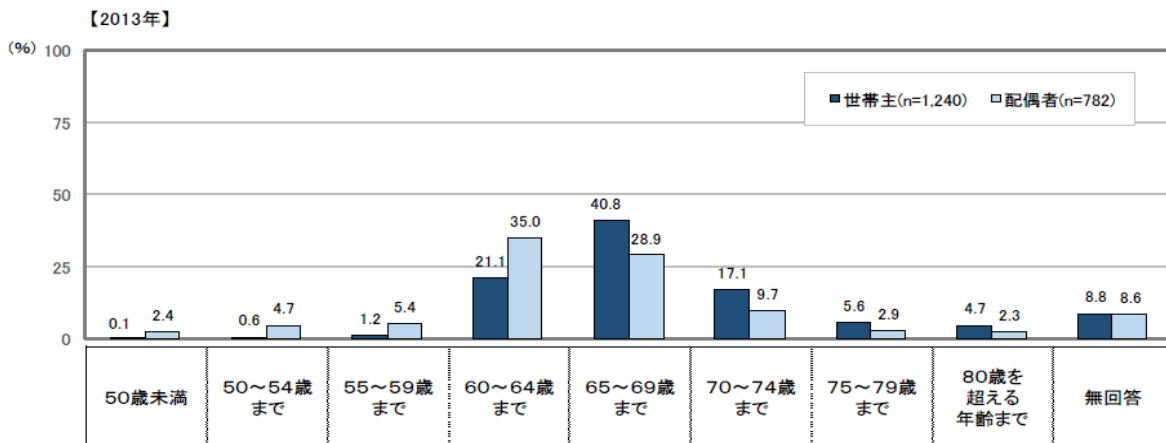
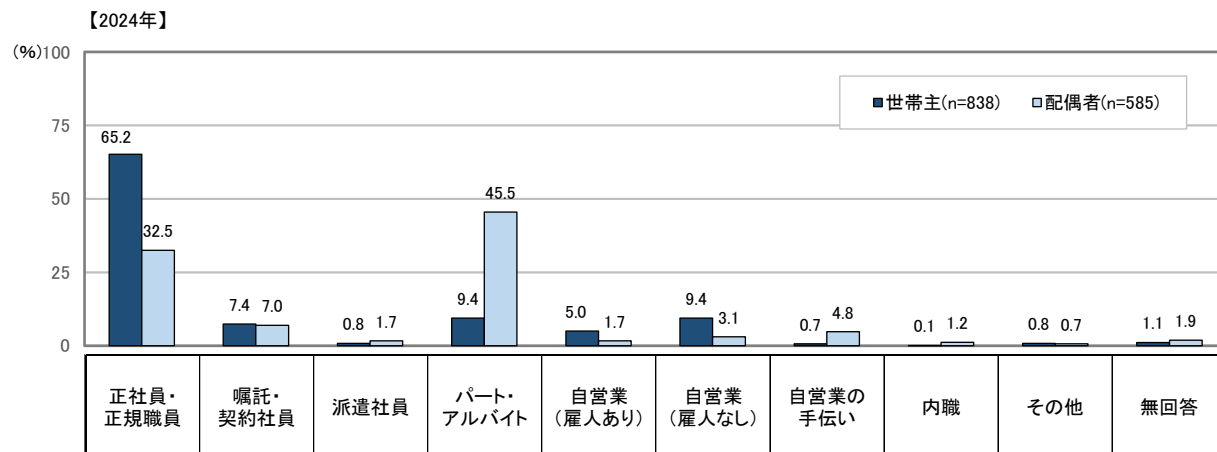
ポイント⑩ 就労継続希望年齢

- ・就労継続希望年齢は、世帯主及び配偶者とも「65～69歳まで」がいずれも3割越えで最も多い。2013年からの推移では、『70歳以上』の回答が増加傾向。
- ・世帯主及び配偶者の雇用形態の最大値は、世帯主が「正社員・正規職員」65.2%、配偶者が「パート・アルバイト」45.5%。2013年からの推移では、配偶者の「正社員・正規職員」が24.9%から、32.5%に上昇。

世帯主・配偶者の就労継続希望年齢（問23-1,）問24-1)



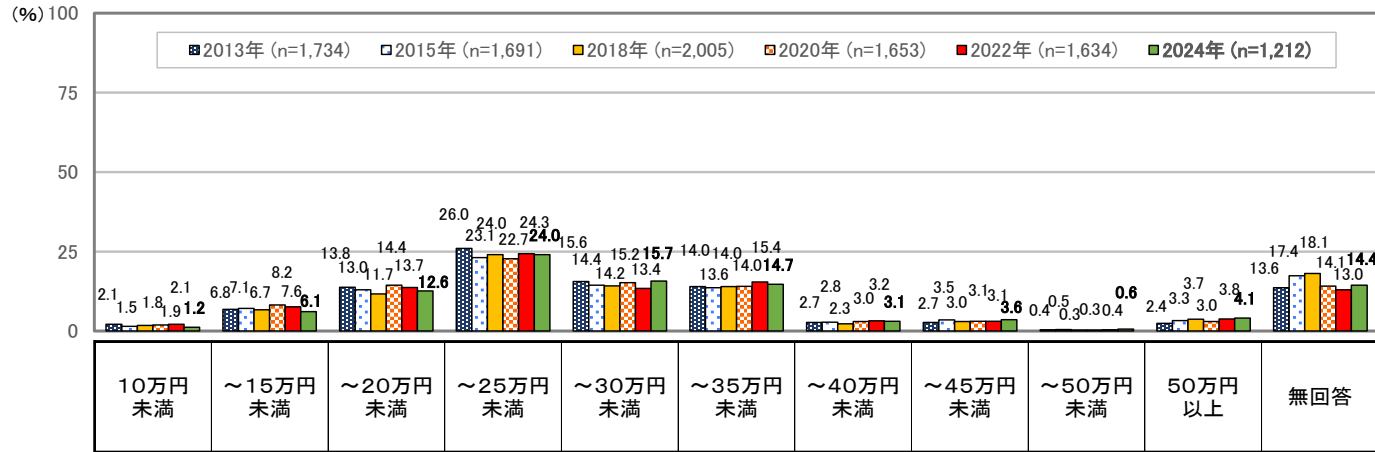
世帯主・配偶者の雇用形態（問23-2,問24-2)



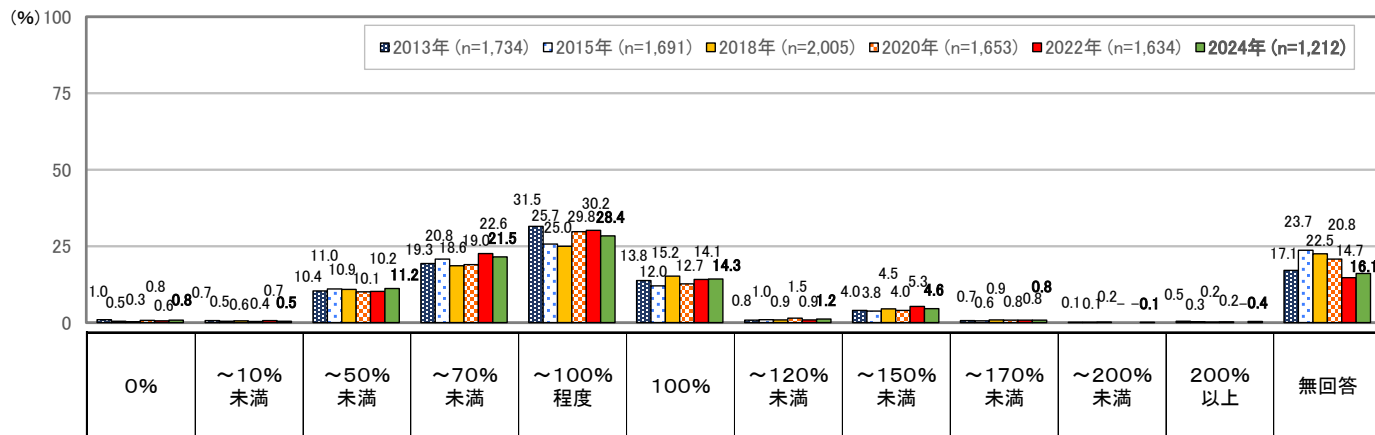
ポイント⑪ 高齢期（65歳以上）の家計の収入等

- ・ 高齢期(65歳以上)の1か月あたりの世帯支出額見込みは、「20万円～25万円未満」が24.0%と最も多い。
- ・ 世帯支出を公的年金で賄える割合は、支出の「70～100%未満」が28.4%が最も多く、「50～70%未満」が21.5%と次に多い。
- ・ 公的年金受給前に必要な貯金額（見込み）は、2,000万円未満の回答が37.3%、2,000万円以上が42.7%。（無回答20.2%）

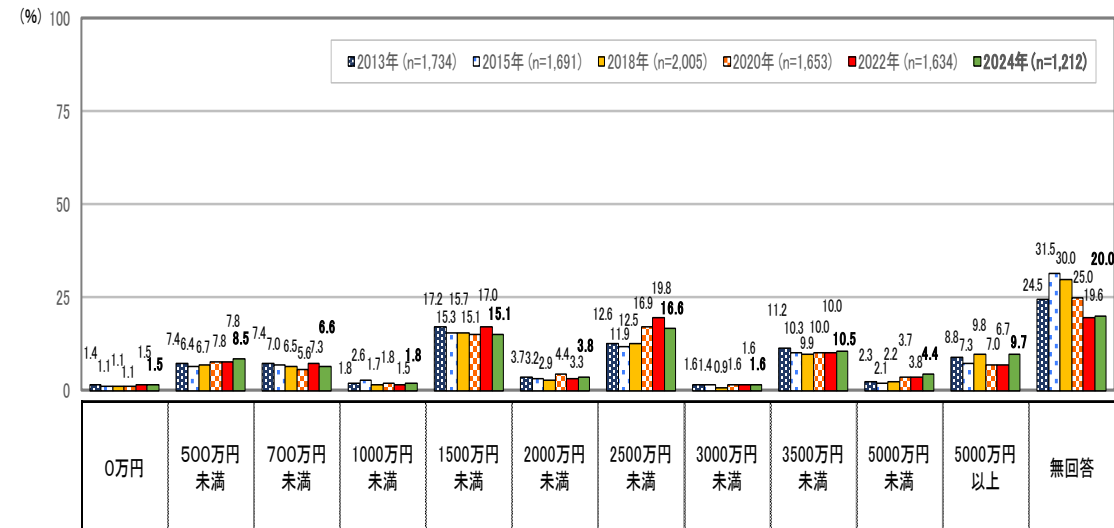
高齢期の一ヶ月当たりの世帯支出額見込み（問31）



公的年金で賄える高齢期の家計支出割合（問35）



公的年金受給前に必要な貯蓄額（問36）



(参考)

調査データの貸出

・ 学術目的で利用する大学又は研究機関等に所属する研究者（生活経済学会の正会員の方を含む。）を対象にアンケート調査の個票データを貸出中。

①貸出方法

所定の書類（「DBデータ利用申請書」）に必要事項を記入し、③の財団あて送信

②貸出期間

原則、最大12か月

③申請書送付先

・ 当財団 研究部（yuchogrants@yu-cho-f.jp）あてメールで送信

※貸出の詳細については、当財団HP（<https://www.yu-cho-f.jp/>）をご覧ください。